

**令和3年度**  
**稚内市**  
**観光入込客数状況**

**稚内市**  
**(令和4年6月)**

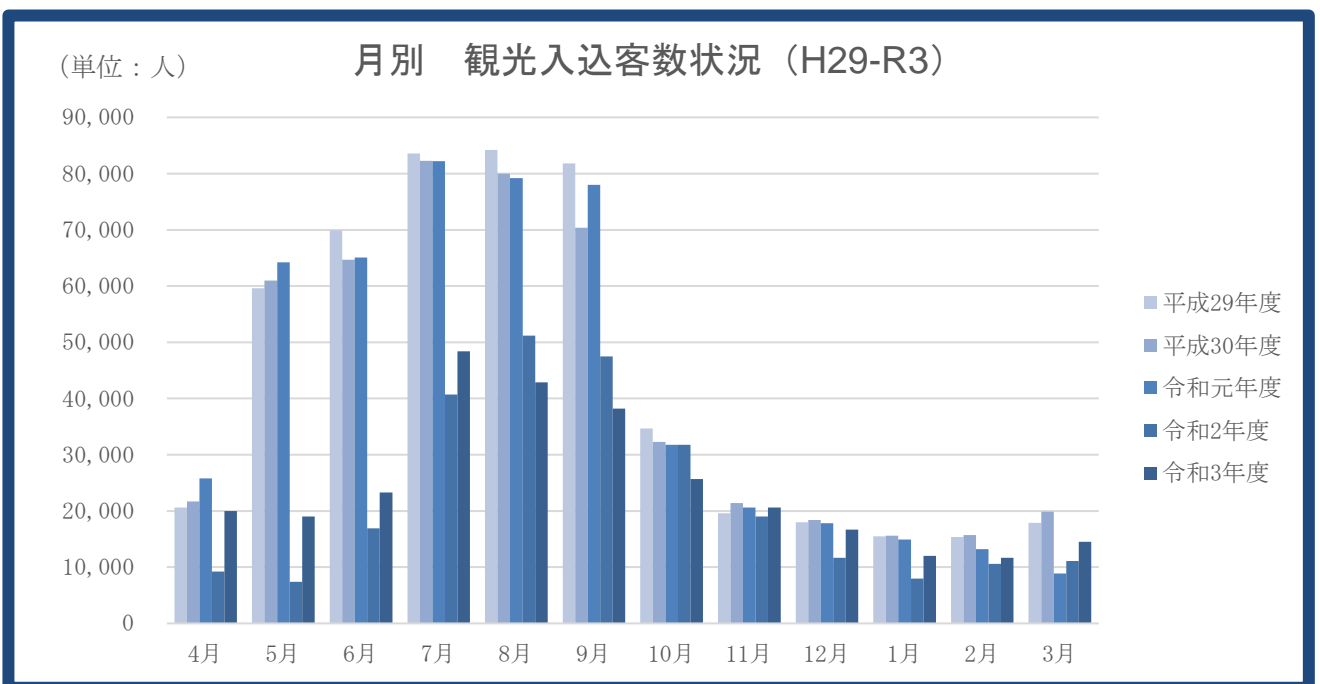
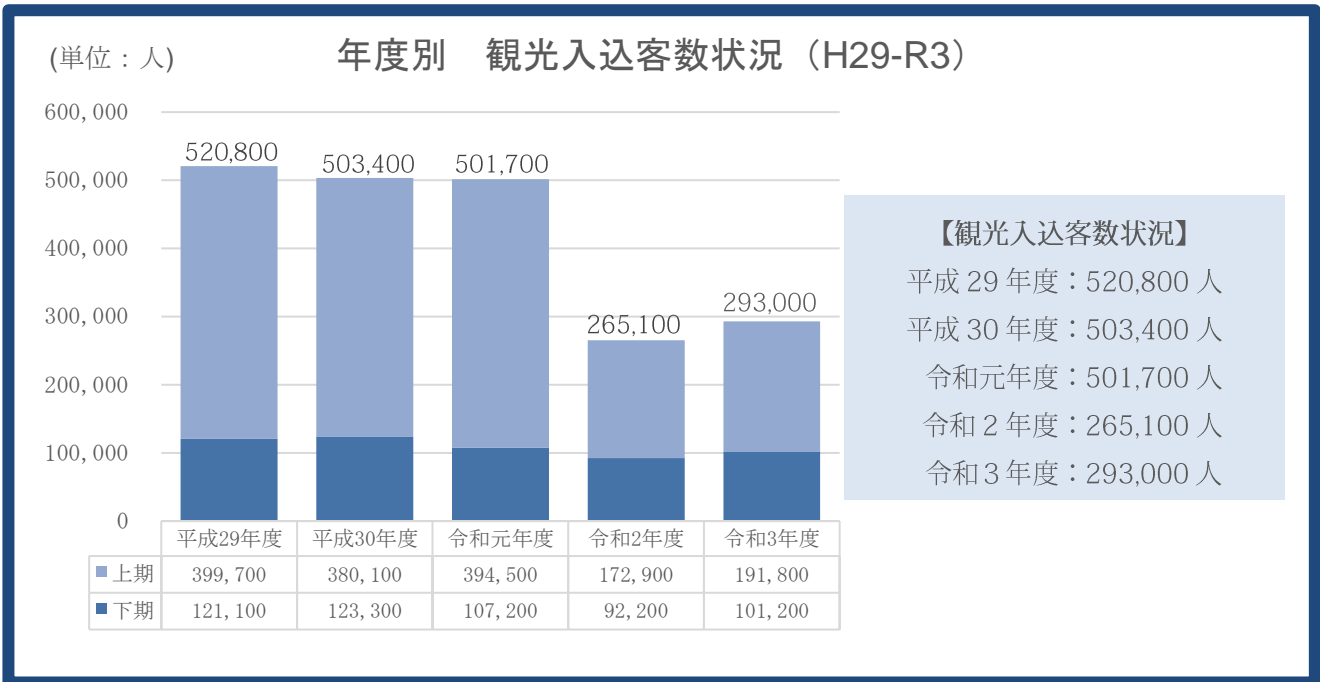
# 目次

I. 観光入込客数の概要 .....	1
(1) 総合的な観光入込客数の状況 .....	1
(2) 道内客・道外客別の状況.....	2
(3) 日帰り客・宿泊客別の状況.....	3
(4) 外国人宿泊客の状況.....	5
II. 観光客動態調査（アンケート）分析.....	6
(1) 地域別観光客の入込状況.....	6
(2) 年代別観光客の入込状況.....	7
(3) 男女別観光客の入込状況.....	7
(4) 旅行日程別観光客の入込状況 .....	8
(5) 市内宿泊状況別観光客の入込状況.....	8
(6) 市内宿泊日数別観光客の入込状況.....	9
(7) 訪問観光地点別観光客の入込状況.....	9
(8) 利尻島・礼文島訪問状況別観光客の入込状況.....	10
(9) 旅行形態別観光客の入込状況 .....	10
(10) 交通手段別観光客の入込状況.....	11
(11) 来稚回数別観光客の入込状況.....	11
(12) 旅行理由別観光客の入込状況.....	12
(13) 近隣市町村観光地点訪問状況別観光客の入込状況.....	12
III. 総合的な検証 .....	13
(1) 令和3年度の観光入込客数状況 .....	13
(2) 観光入込客数の月別分析 .....	13
(3) 総括及び今後の取り組み.....	15
IV. 資料	
(1) 観光入込客数総表 .....	17
(2) 外国人宿泊客数総表.....	18

## I. 観光入込客数の概要

### (1) 総合的な観光入込客数の状況

令和3年度観光入込客数は、総数 293,000 人で、前年の 265,100 人より 27,900 人 (10.5%) 増加した  
**【上期】** 191,800 人で、前年の 172,900 人より 18,900 人 (10.9%) 増加した。  
**【下期】** 101,200 人で、前年の 92,200 人より 9,000 人 (9.8%) 増加した。

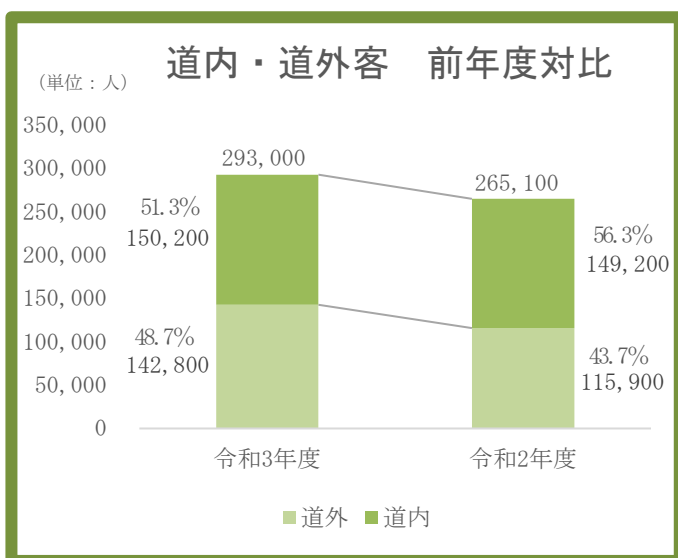


## (2) 道内客・道外客別の状況

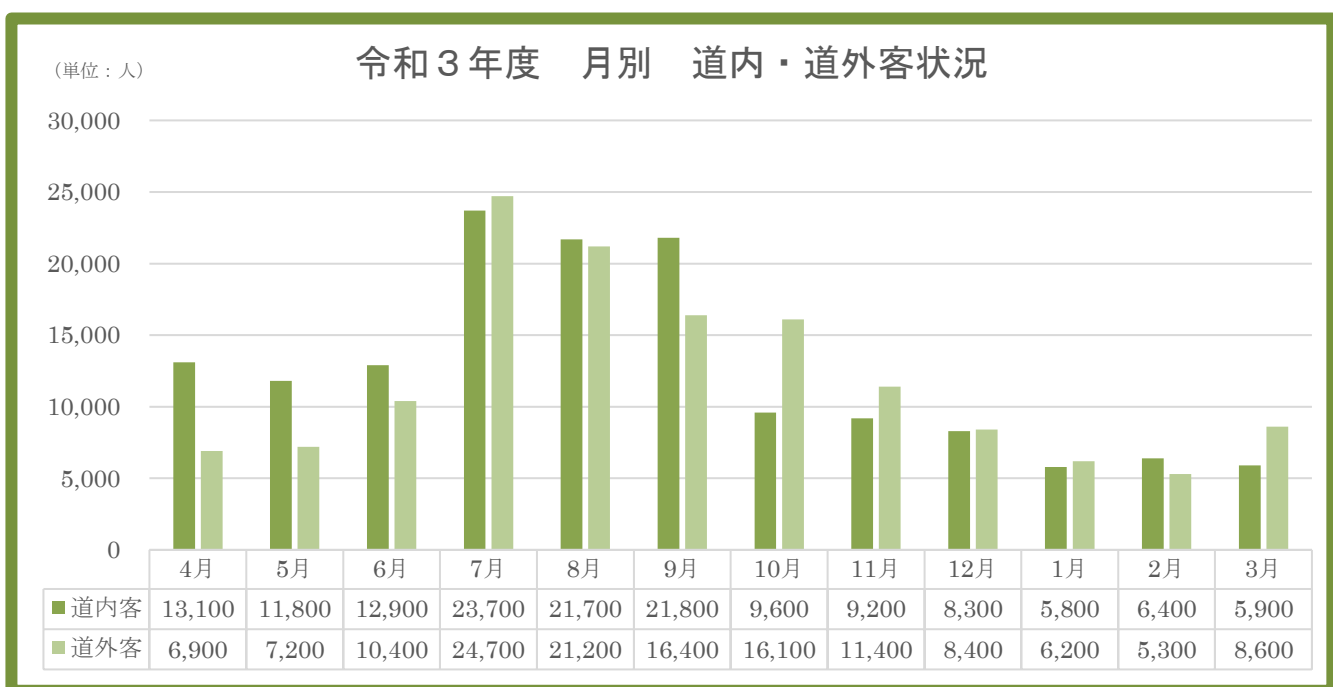
道内客は 150,200 人で前年の 149,200 人より 1,000 人 (0.7%) 増加、道外客は 142,800 人で前年の 115,900 人より 26,900 人 (23.2%) 増加した。

【上期】道内客は 105,000 人で前年の 105,700 人より 700 人 (0.7%) 減少、道外客は 86,800 人で前年の 67,200 人より 19,600 人 (29.2%) 増加した。

【下期】道内客は 45,200 人で前年の 43,500 人より 1,700 人 (3.9%) 増加、道外客は 56,000 人で前年の 48,700 人より 7,300 人 (15.0%) 増加した。



区 分		令和3年度	令和2年度
道内客	上期	105,000 人	105,700 人
	下期	45,200 人	43,500 人
道外客	上期	86,800 人	67,200 人
	下期	56,000 人	48,700 人
上期合計		191,800 人	172,900 人
下期合計		101,200 人	92,200 人
合 計		293,000 人	265,100 人



### (3) 日帰り客・宿泊客別の状況

日帰り客は85,300人で前年の81,400人より3,900人(4.8%)増加した。

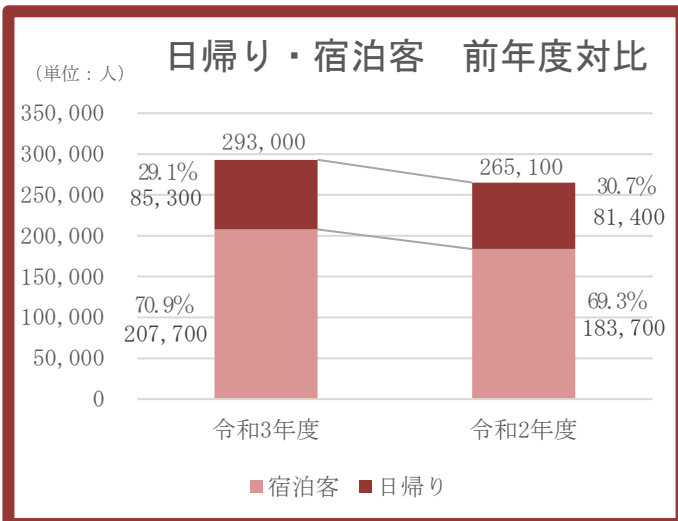
【上期】69,500人で前年の63,400人より6,100人(9.6%)増加した。

【下期】15,800人で前年の18,000人より2,200人(12.2%)減少した。

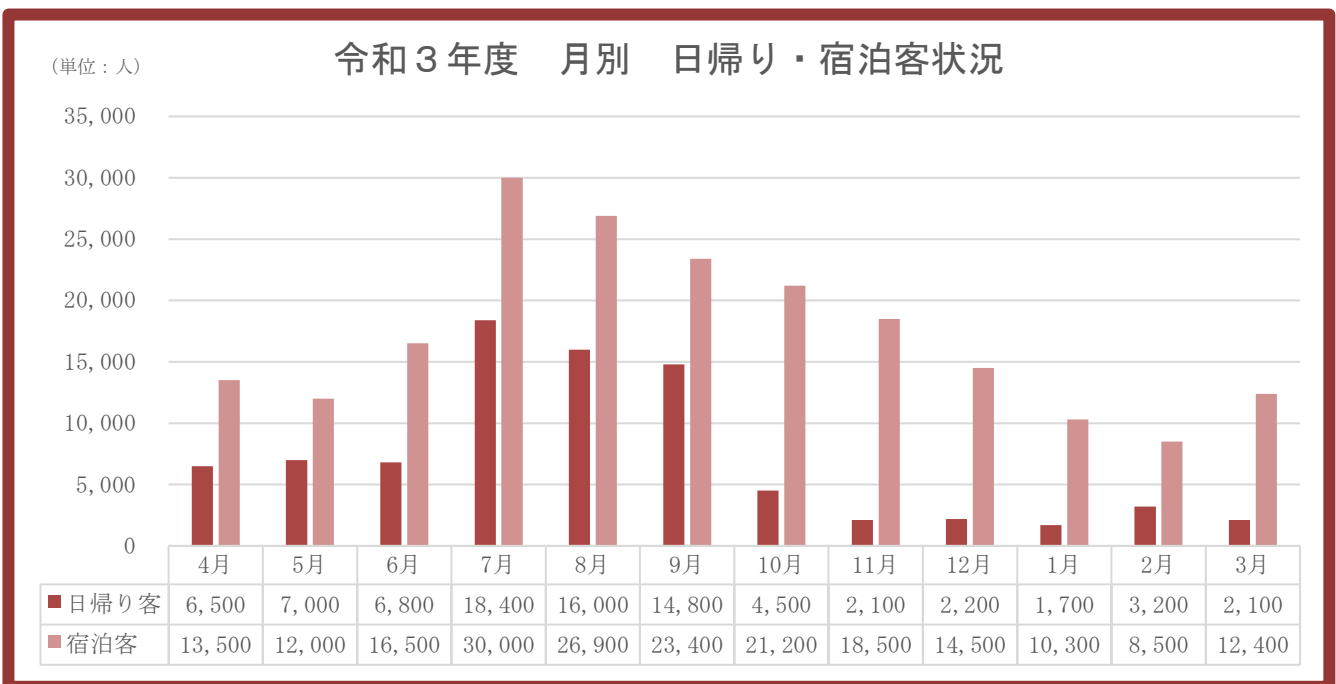
宿泊客は207,700人で前年の183,700人より24,000人(13.1%)増加した。また、宿泊客延数は274,400人で前年の240,600人より33,800人(14.0%)増加した。

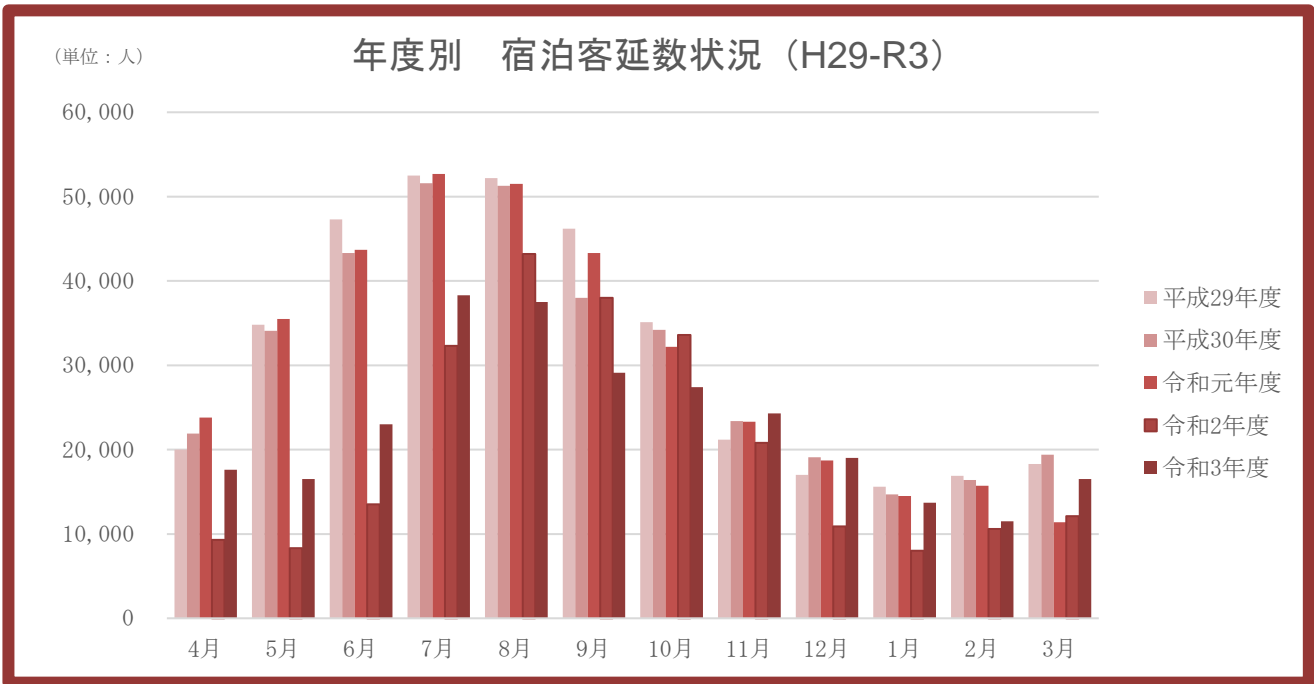
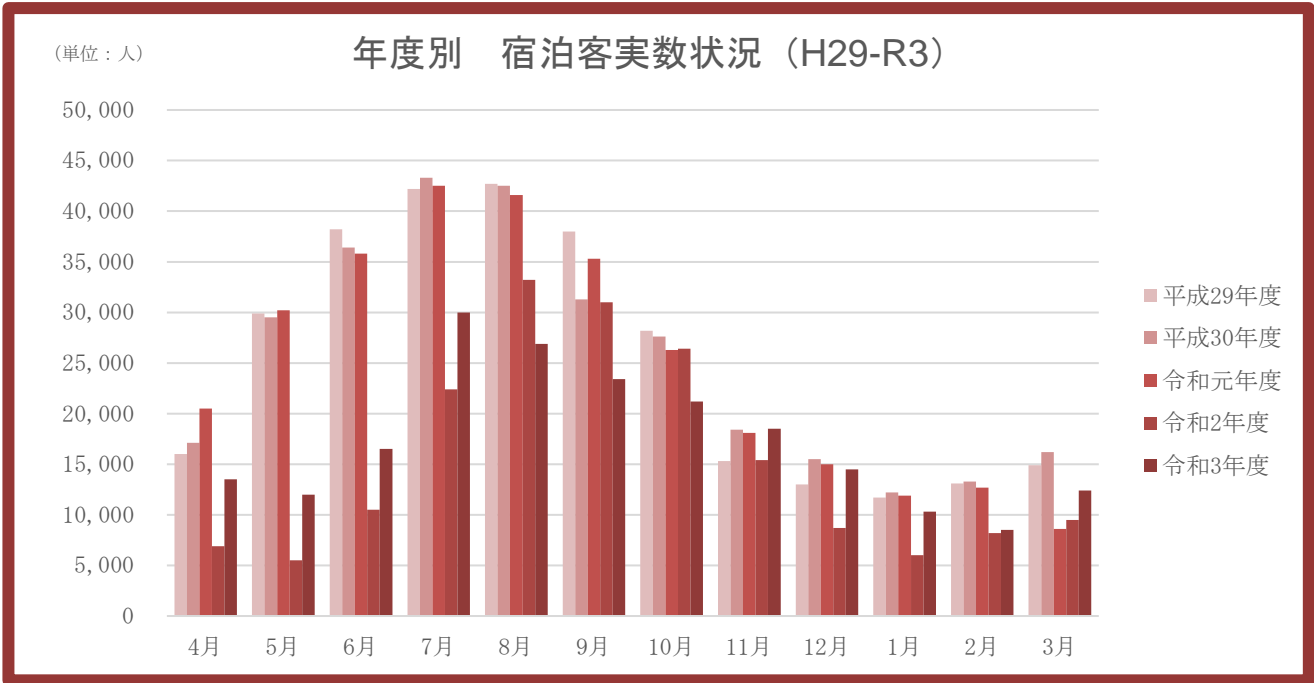
【上期】宿泊客は122,300人で前年の109,500人より12,800人(11.7%)増加した。また、宿泊客延数は162,000人で前年の144,600人より17,400人(12.0%)増加した。

【下期】宿泊客は85,400人で前年の74,200人より11,200人(15.1%)増加した。また、宿泊延数は112,400人で前年の96,000人より16,400人(17.1%)増加した。



区分		令和3年度	令和2年度
日帰り	上期	69,500人	63,400人
	下期	15,800人	18,000人
宿泊	上期	122,300人	109,500人
	下期	85,400人	74,200人
上期合計		191,800人	172,900人
下期合計		101,200人	92,200人
合計		293,000人	265,100人





【宿泊客状況 (実数)】

	上期	下期	合計
平成 29 年度	207,000 人	96,200 人	303,200 人
平成 30 年度	200,100 人	103,200 人	303,300 人
令和元年度	205,900 人	92,600 人	298,500 人
令和 2 年度	109,500 人	74,200 人	183,700 人
令和 3 年度	122,300 人	85,400 人	207,700 人

【宿泊客状況 (延数)】

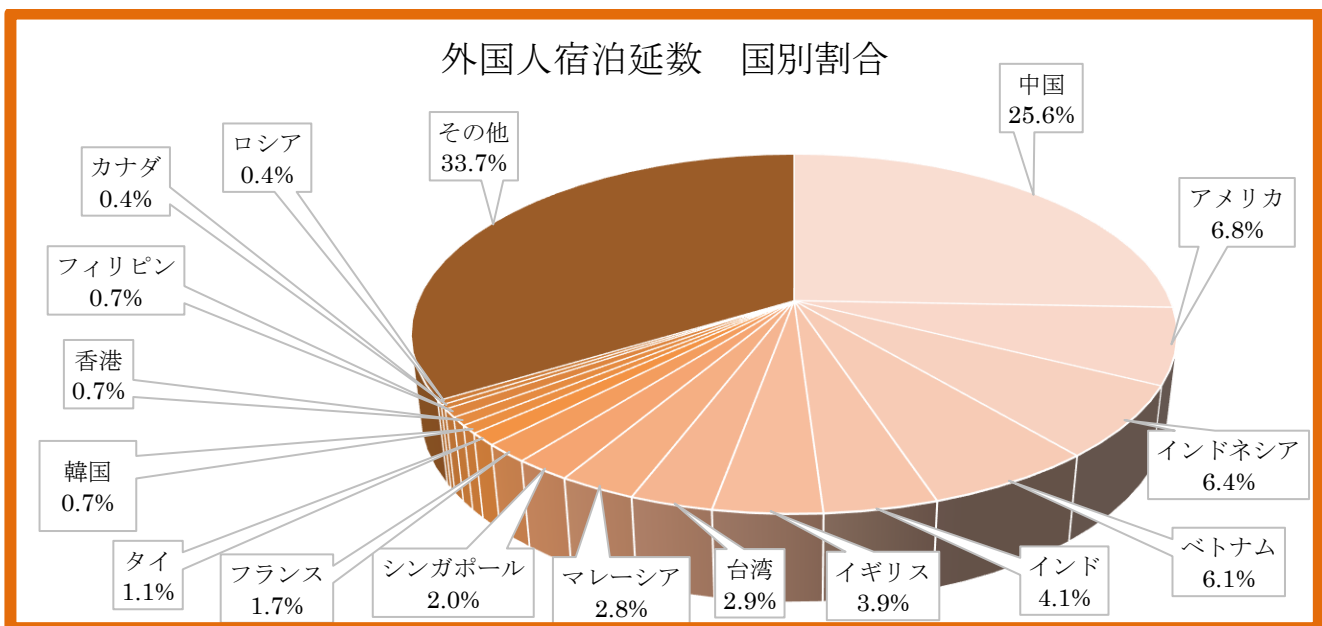
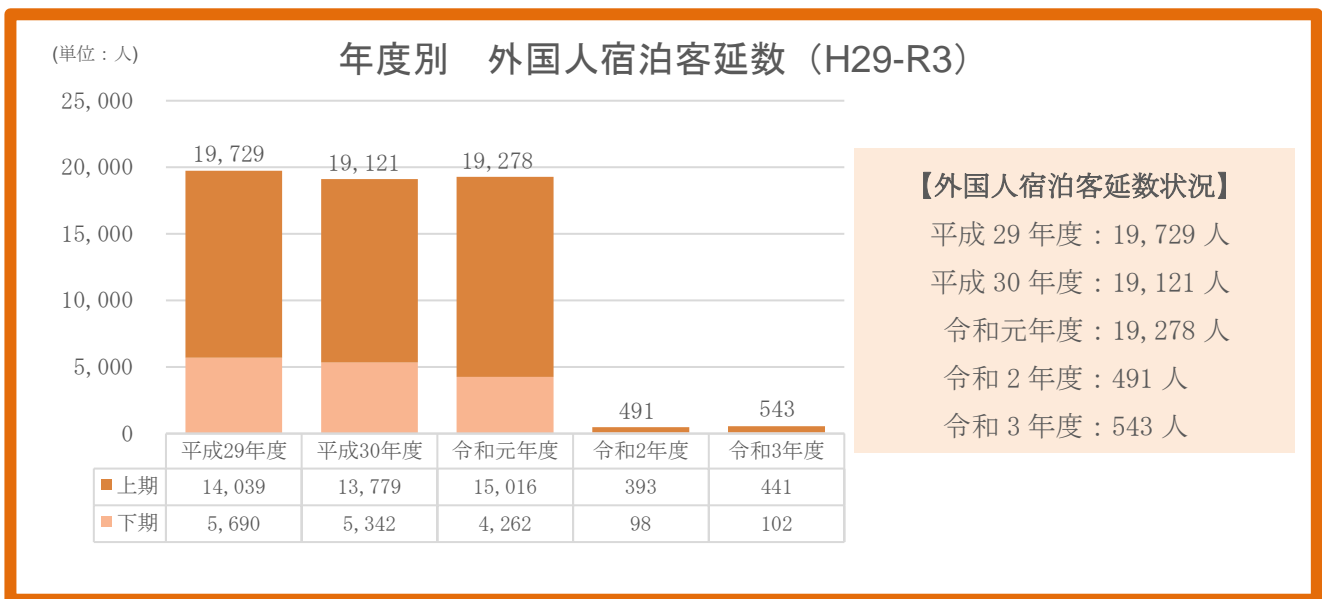
	上期	下期	合計
平成 29 年度	253,000 人	124,100 人	377,100 人
平成 30 年度	240,200 人	127,200 人	367,400 人
令和元年度	250,500 人	115,800 人	366,300 人
令和 2 年度	144,600 人	96,000 人	240,600 人
令和 3 年度	162,000 人	112,400 人	274,400 人

#### (4) 外国人宿泊客の状況

外国人宿泊客延数は543人泊で前年の491人泊より52人泊(10.6%)増加した。宿泊客の国別内訳は、中国が139人泊(25.6%)と最も多く、続いてアメリカが37人泊(6.8%)、インドネシアが35人泊(6.4%)である。外国人宿泊客はそのほとんどが日本在住者とみられる。

【上期】宿泊延数は441人泊で前年の393人泊より48人泊(12.2%)増加した。宿泊者の国別内訳は、中国が104人泊(23.6%)と最も多く、続いてアメリカが35人泊(7.9%)、インドネシアが30人泊(6.8%)である。

【下期】宿泊延数は102人泊で前年の98人泊より4人泊(4.1%)増加した。宿泊者の国別内訳は中国が35人泊(34.3%)と最も多く、続いてベトナムが11人泊(10.8%)、台湾とインドネシアが5人泊(4.9%)である。



## Ⅱ. 観光客動態調査（アンケート）分析

### ☆注意☆

前章で用いたデータ値は、交通データやホテル旅館業への聞き取り調査から得ている。  
一方、この章で用いたデータ値は、観光客への直接的なアンケート調査から算出したものであるため、前章の分析結果と若干の差が生じている。

### （１）地域別観光客の入込状況

令和 3 年度の地域別観光客の入込状況は、いずれも新型コロナの影響により、前年度と比較して大きな変化はない。しかし、新型コロナ感染拡大前の状況に戻りつつある傾向は若干見られる。

#### ①道内観光客の入込状況

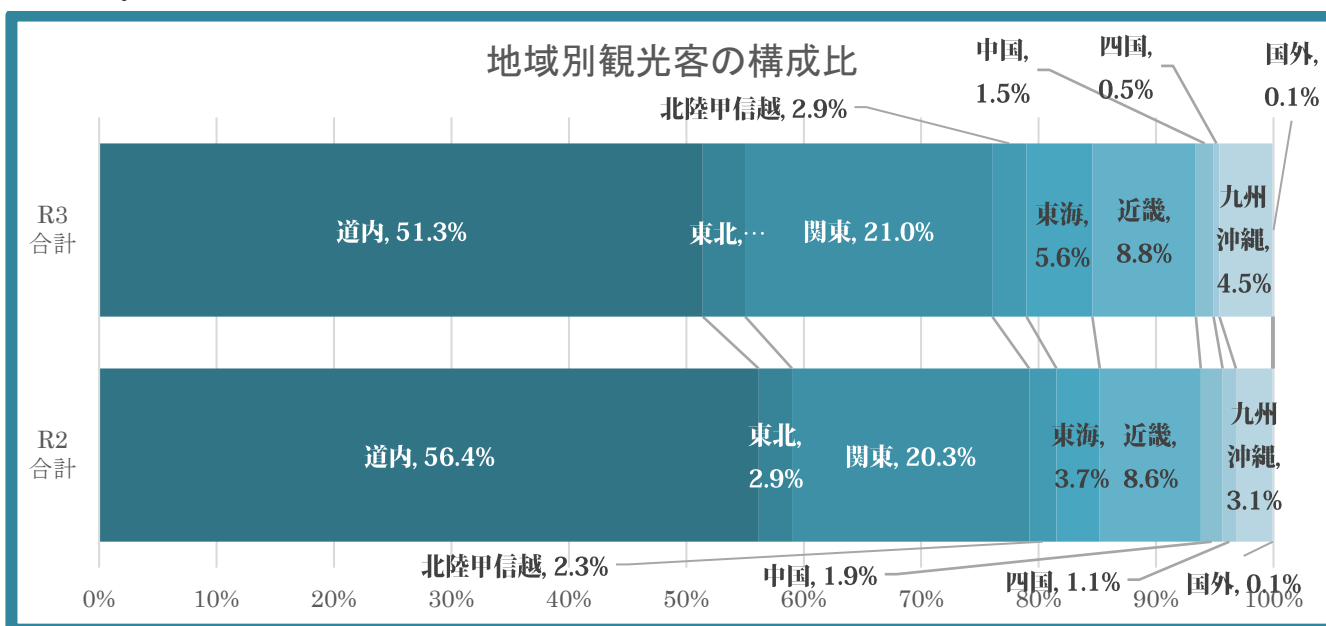
道内観光客の割合は若干減少（56.4%⇒51.3%）したが、人数では約 1,000 人増加した。これは新型コロナの影響によって道外観光客の割合が大幅に減少した令和 2 年度に引き続き、令和 3 年度もコロナ前の水準まで回復していないことや、道内客がマイクロツーリズムを好んだ傾向があったためと考えられる。

#### ②道外観光客の入込状況

道外観光客の割合は若干増加（43.5%⇒48.6%）し、人数では約 27,000 人増加した。これは昨年度と比べ、道外客の道内旅行の機運が高まったものと考えられるが、依然、コロナ前の水準までは回復していない。

#### ③外国人観光客の入込状況

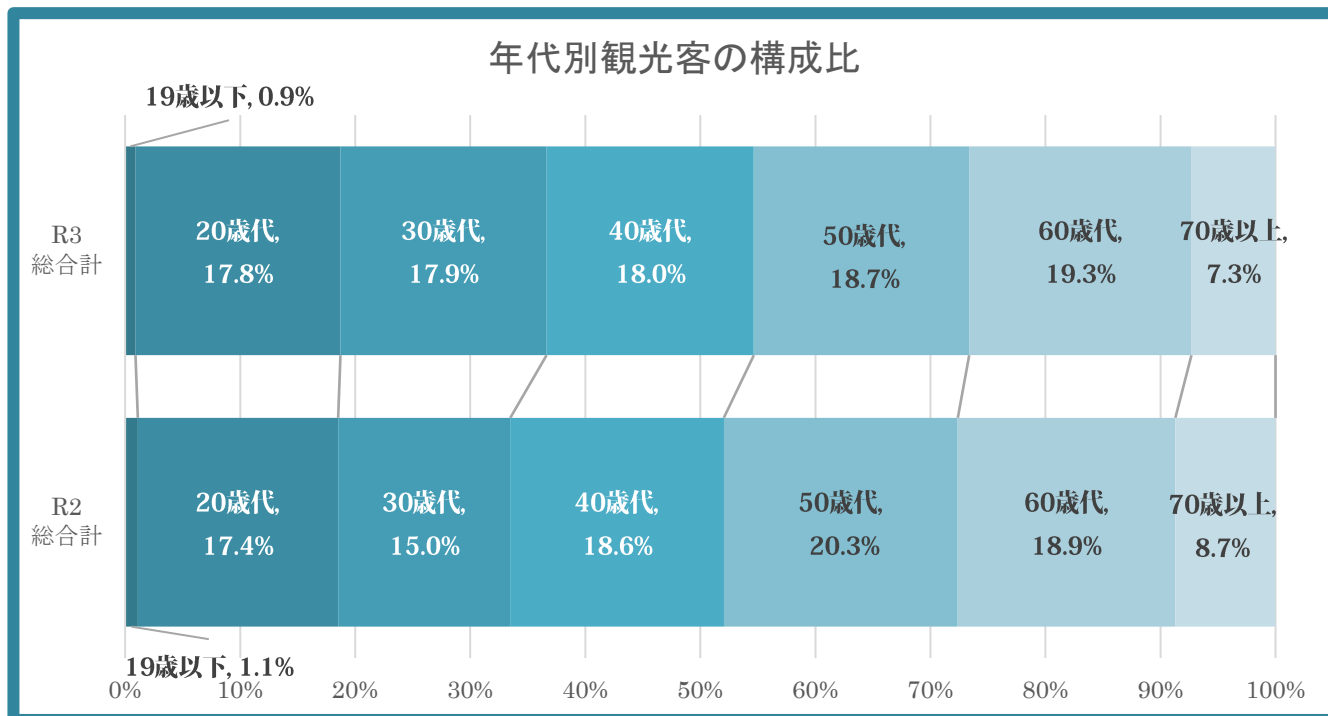
外国人観光客（国外）の割合は変化しておらず（0.1%⇒0.1%）、外国人宿泊延数 52 人の増加にとどまっている。これは昨年度と同様、新型コロナの影響による渡航自粛や国の入国制限が継続されたためである。





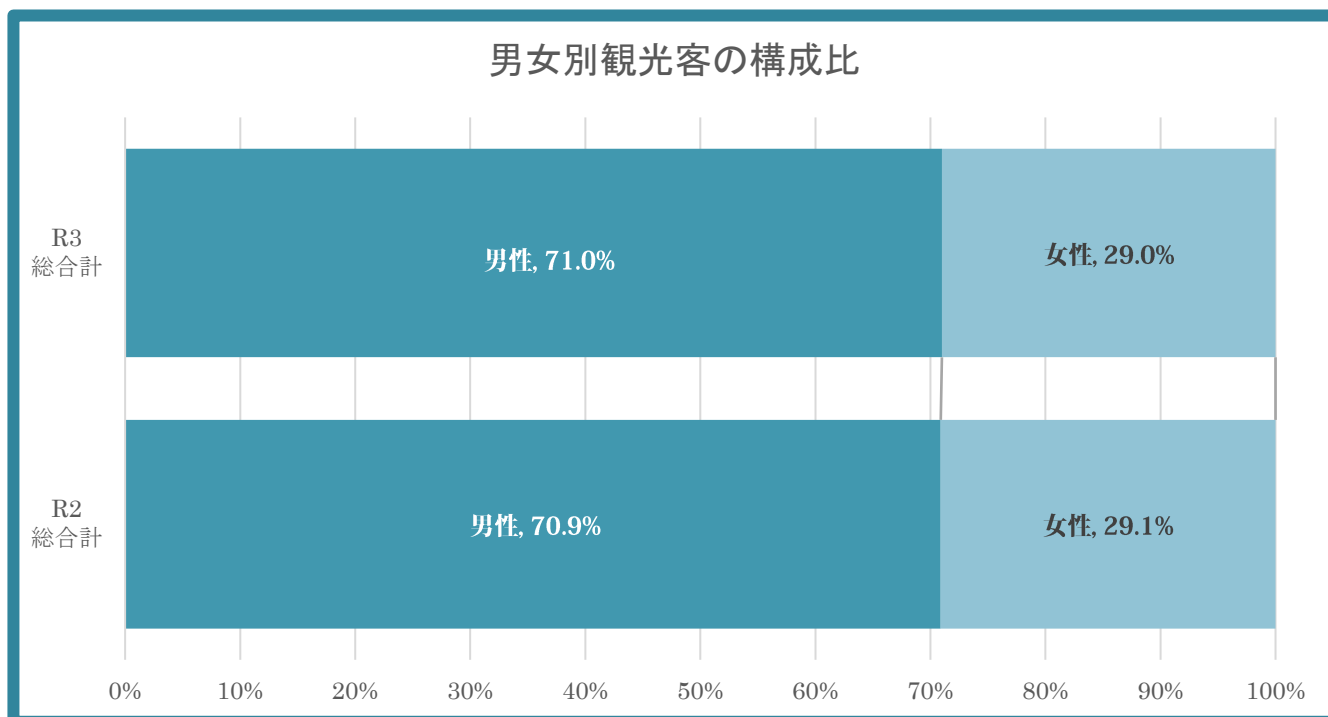
### (2) 年代別観光客の入込状況

年代別観光客では40歳未満の年代の割合が増加(52.1%⇒54.6%)している。これは昨年に引き続き、主に高齢層が利用する団体旅行の催行がコロナ前の水準になく、その反面、個人旅行を主とする若年層の割合が増えたためと考えられる。



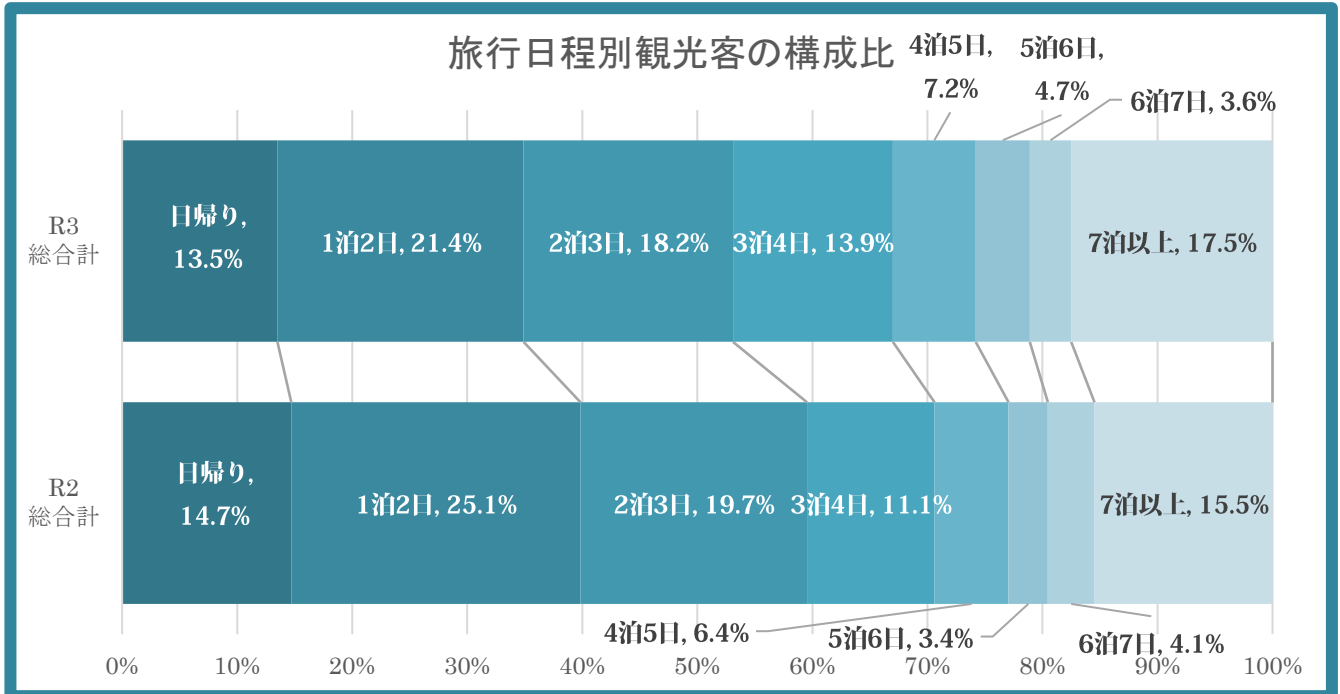
### (3) 男女別観光客の入込状況

男女別観光客の割合は変化がなかった。



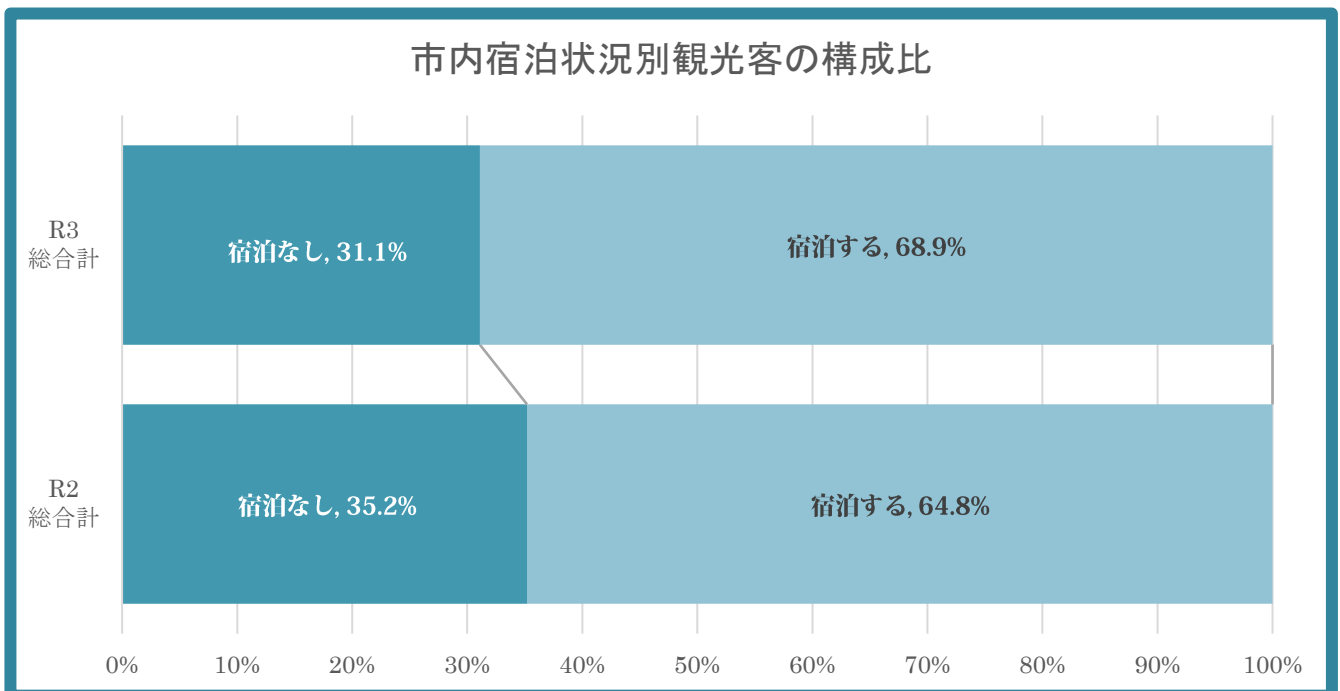
#### (4) 旅行日程別観光客の入込状況

旅行日程別観光客では、7泊以上の割合が増えている（15.5%⇒17.5%）。これはキャンプや車中泊（キャンピングカー含む）などで長期的に旅行を行う観光客や大型建設工事の関係者による宿泊が増えたものと考えられる。



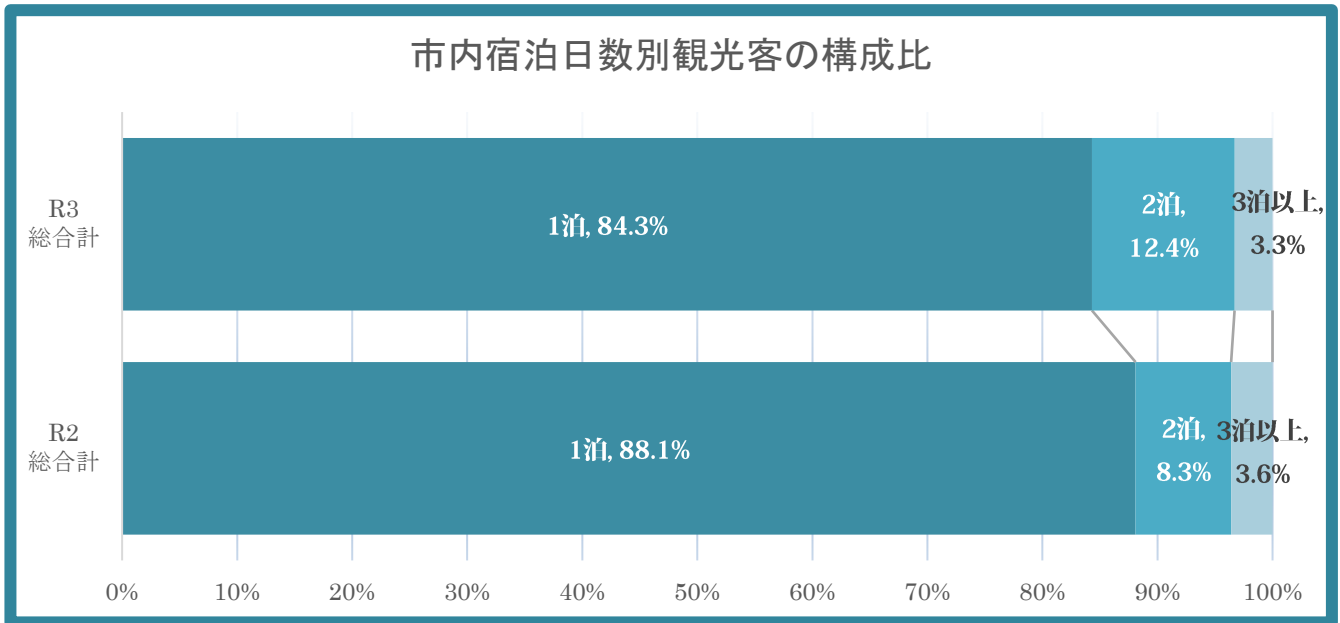
#### (5) 市内宿泊状況別観光客の入込状況

市内宿泊状況別観光客では、本市に宿泊すると答えた旅行者の割合が増加（64.8%⇒68.9%）した。これは本市が経済対策として実施した宿泊者へのクーポン事業などの影響があると推察できる。



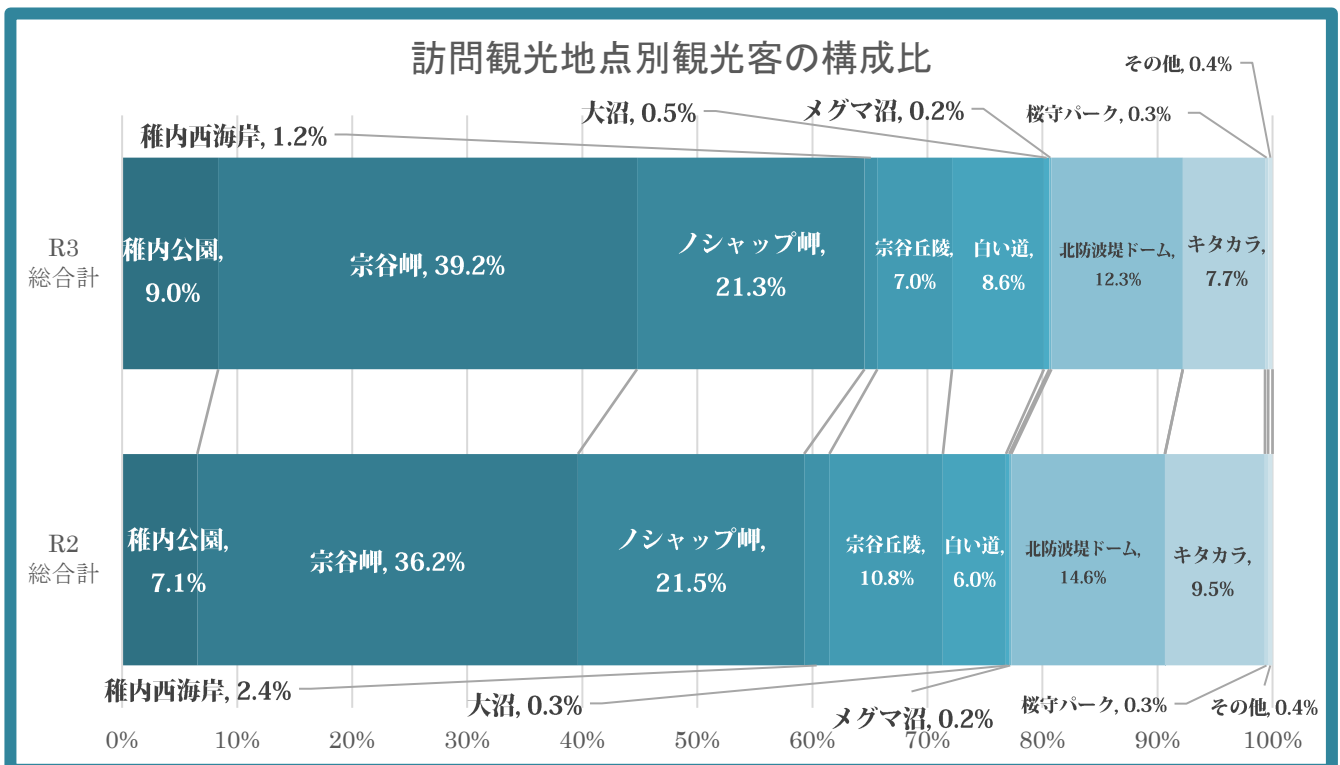
(6) 市内宿泊日数別観光客の入込状況

市内宿泊日数別観光客では2泊以上の割合が増加(11.9%⇒15.7%)した。その分、1泊の割合が減少(88.1%⇒84.3%、人数は約13,500人増)している。これは当市が経済対策として実施したクーポン事業などにより魅力的な宿泊プランが多かったり、ビジネスなどで長期に滞在する者が増えたためと考えられる。



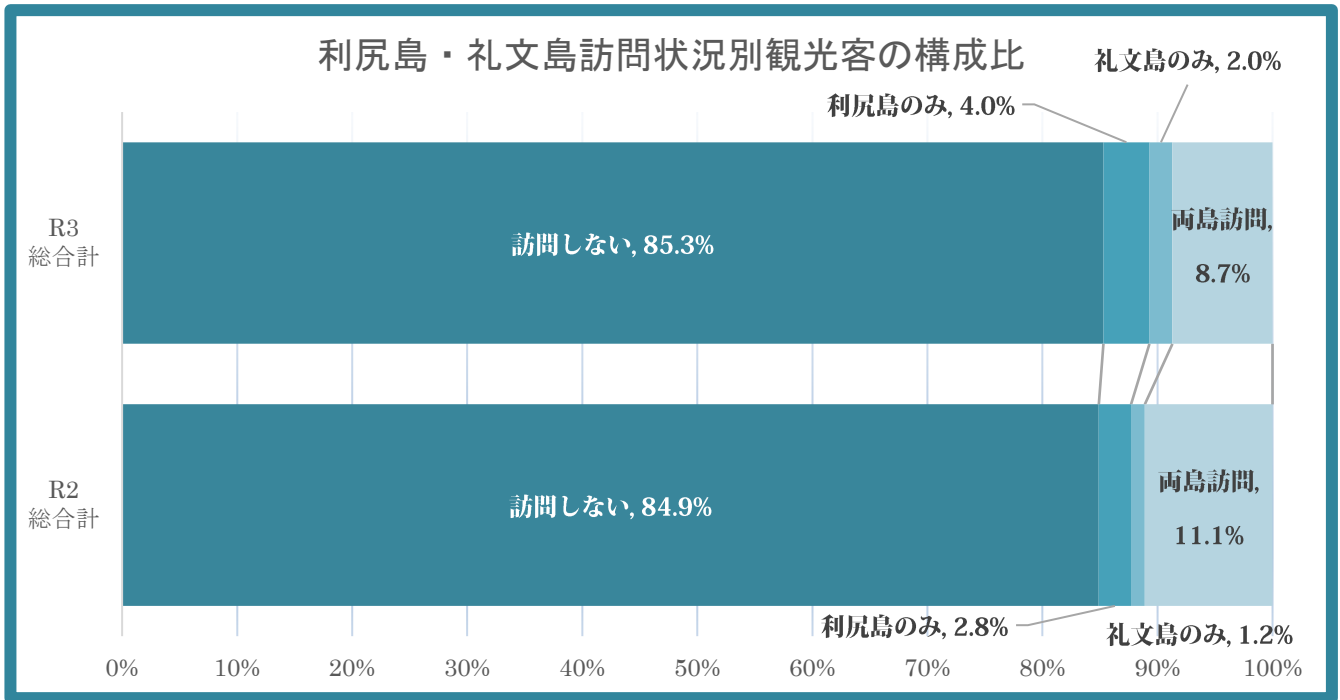
(7) 訪問観光地点別観光客の入込状況

訪問観光地点別観光客では、前年同様、稚内公園・宗谷岬・ノシャップ岬・宗谷丘陵・白い道・北防波堤ドーム・キタカラを訪問する観光客の割合が全体の9割以上を占めている。



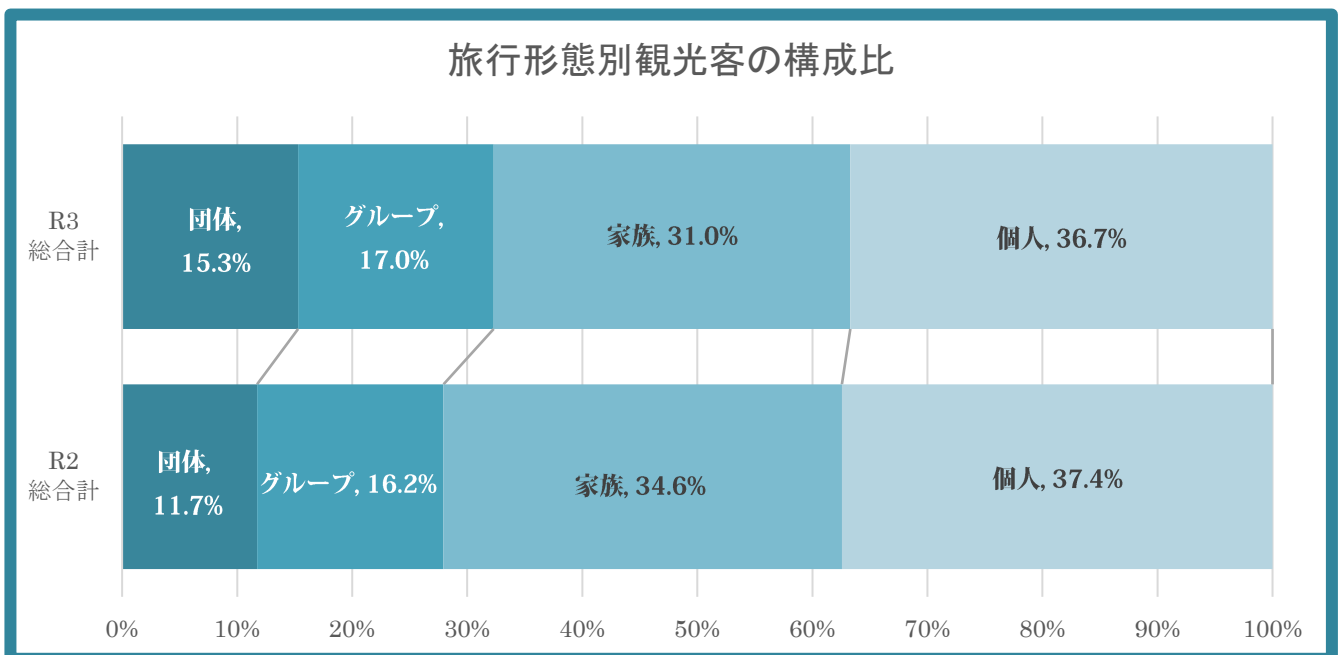
(8) 利尻島・礼文島訪問状況別観光客の入込状況

利尻島・礼文島訪問状況別観光客の入込状況は、両島を訪問する観光客の割合が減少（11.1%⇒8.7%、人数は約4,000人減）し、その分、一方の島のみを訪問する観光客の割合が増加（4.0%⇒6.0%）した。



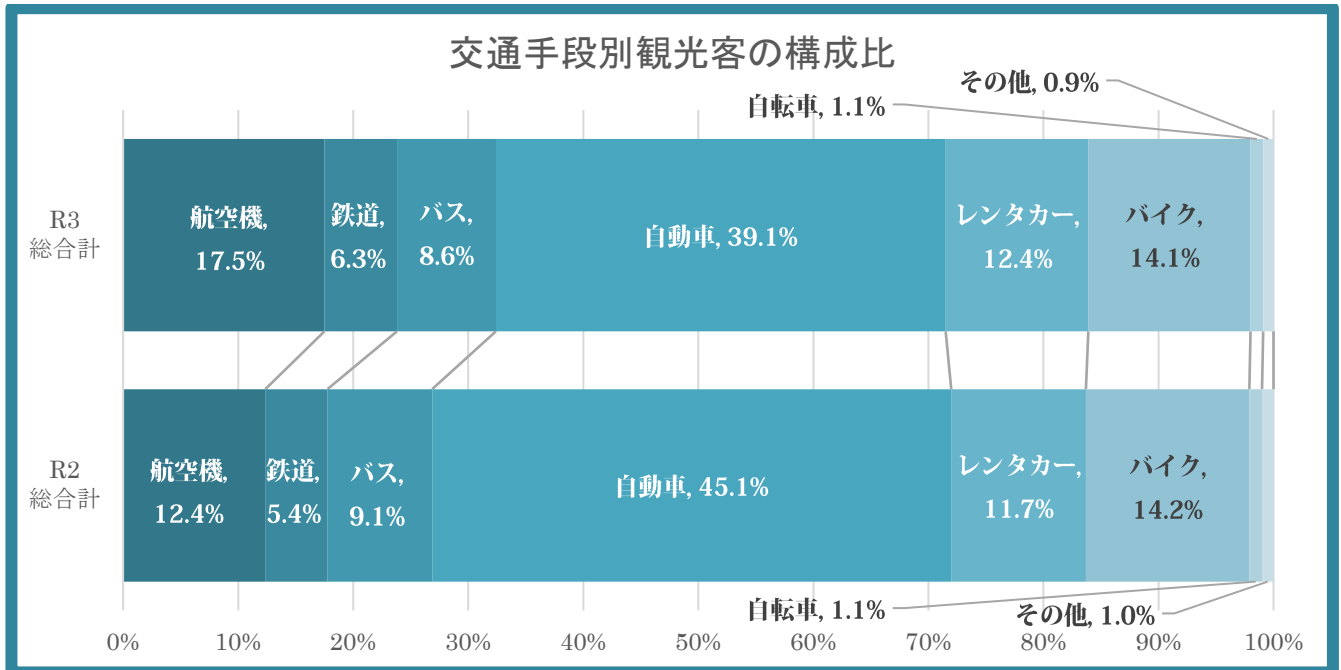
(9) 旅行形態別観光客の入込状況

旅行形態別観光客では、団体旅行（11.7%⇒15.3%）やグループ旅行（16.2%⇒17.0%）の割合が増加した一方、家族旅行（34.6%⇒31.0%、人数は約1,000人減）や個人旅行（37.4%⇒36.7%、人数は約8,300人増）の割合は減少した。これらの要因は、令和2年度に比べ感染対策を重視した団体旅行の催行が一定程度ルール化されたことによるものと考えられる。



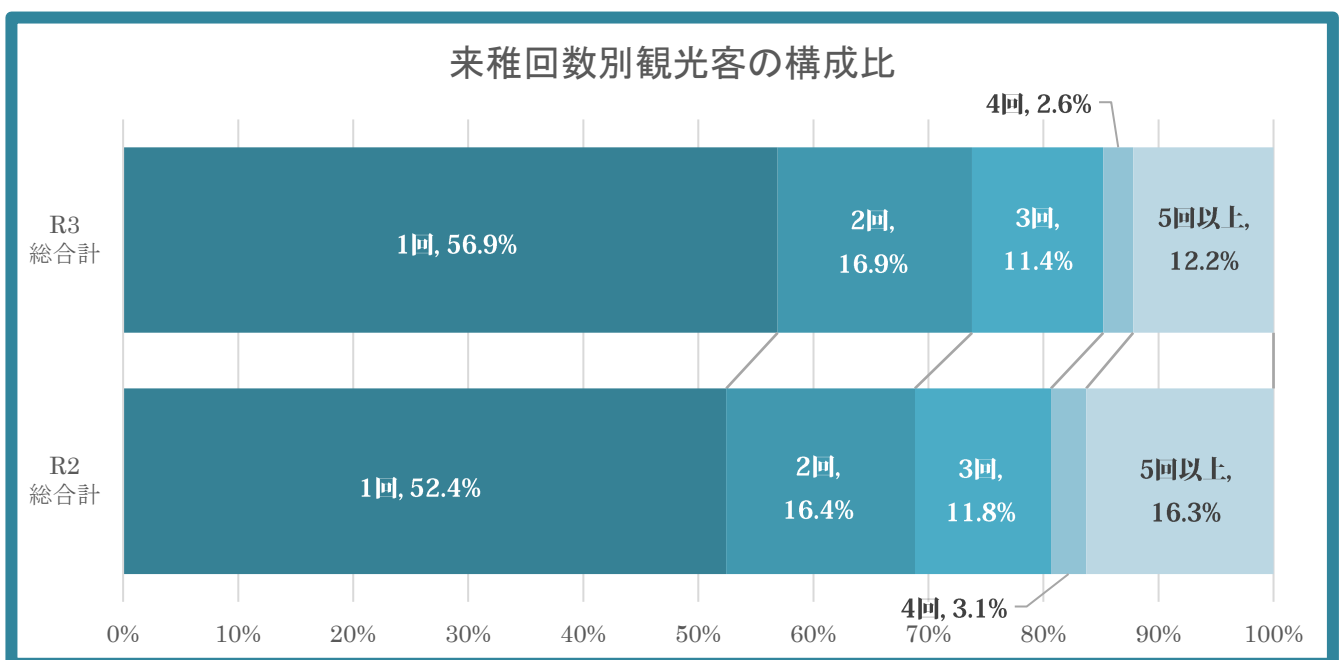
(10) 交通手段別観光客の入込状況

交通手段別観光客では、航空機を利用した割合が増加（12.4%⇒17.5%）した。この理由は航空機の運航を休止していた期間が多かった昨年度と比べ、今年度は運航が継続されたことによって航空機の利用者が増えたためと考えられる。その一方、自動車を利用した割合が減少（45.1%⇒39.1%、人数は5,000人減）している。



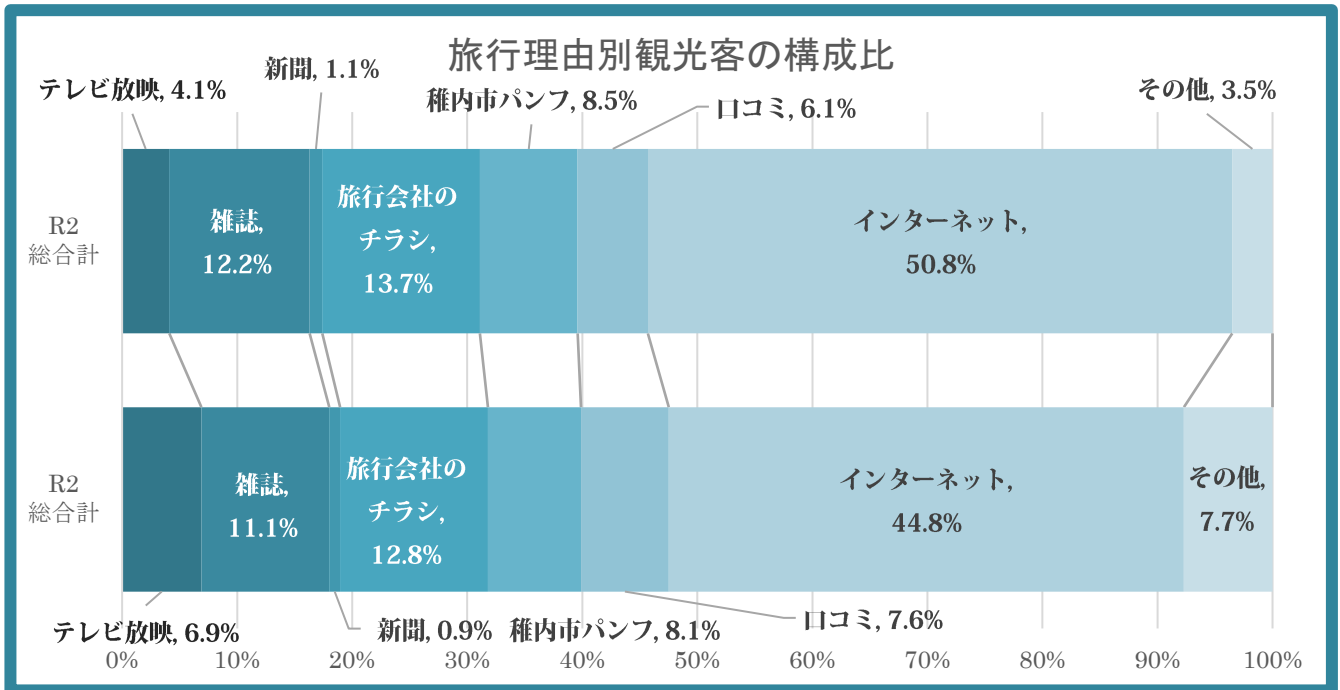
(11) 来稚回数別観光客の入込状況

来稚回数別観光客では、初めて本市を訪れた観光客（1回）の割合が増加（52.4%⇒56.9%）した。これは初めて本市を訪れる道外観光客の割合が若干増加したことや団体ツアーの催行が増えたこと、海外旅行から国内旅行に切り替えた人々がいたことなどが要因と考えられる。



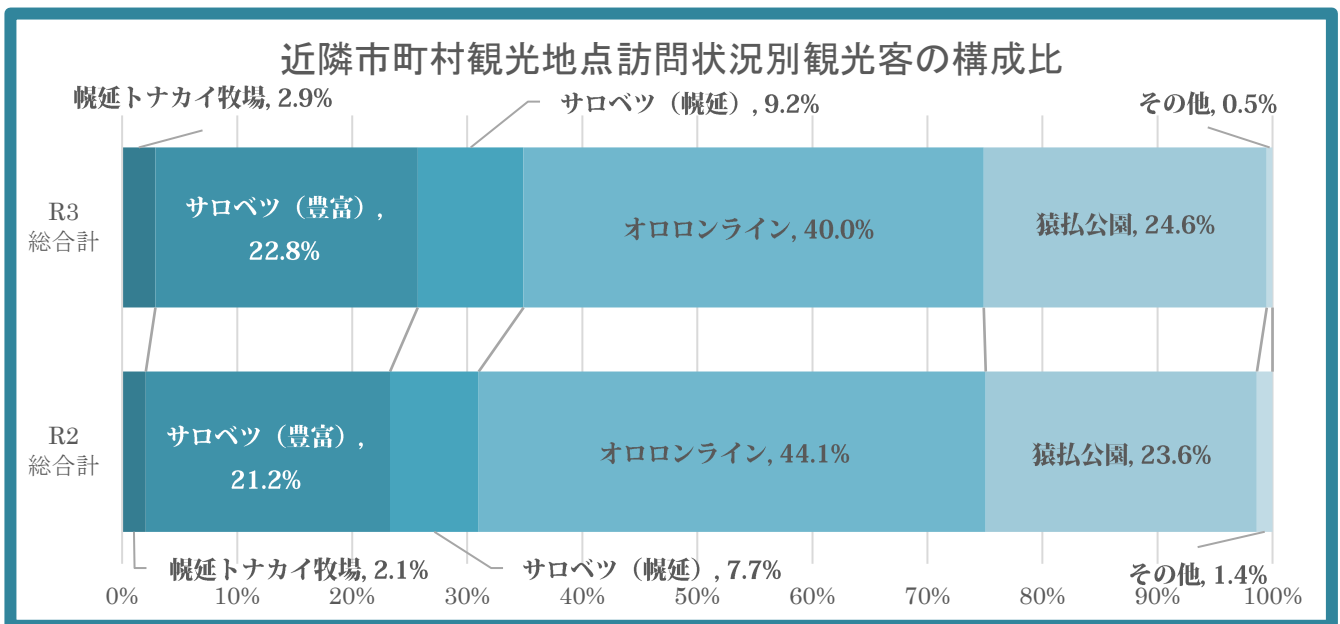
### (12) 旅行理由別観光客の入込状況

旅行理由別観光客では、インターネットの割合が増加（44.8%⇒50.8%）している。この状況はここ数年続いている。本市が経済対策として実施したクーポン事業を利用し、オンラインで宿泊予約をした人々が増えたこともインターネットの割合が増加している要因とみられる。



### (13) 近隣市町村観光地点訪問状況別観光客の入込状況

近隣市町村観光地点訪問状況別観光客では、依然、オロロンラインや猿払公園の割合が高い。これはいずれも国道や道道などの幹線道路沿いに位置することから、自動車やバイクなどで都市間の移動をする観光客や道内を周遊する団体ツアーなどが立ち寄っている状況があるためと考えられる。



### Ⅲ. 総合的な検証

#### (1) 令和3年度の観光入込客数状況

令和3年度の観光入込客数は293,000人であり、令和2年度の265,100人と比較して27,900人(10.5%)増加した。新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の感染拡大による不要不急の外出自粛によって観光入込客数が大幅に減少した令和2年度に比べ、令和3年度は団体旅行の再開やグループ単位での旅行が増えたことなどが理由とみられる。また、当市が経済対策として実施した「わからない応援クーポン事業」などの成果があり、令和3年度の宿泊客延数は274,400人泊であり、令和2年度の240,600人泊と比較して33,800人泊(14.0%)増加した。このように令和2年度と比べて令和3年度の観光入込状況は上昇傾向がみられるが、令和元年の501,700人と比較すると208,700人(▲41.6%)の減少であり、新型コロナ以前の入込客数には達していない。

令和3年度の道外客は142,800人であり、令和2年度の115,900人と比較して26,900人(23.2%)増加したものの、令和元年度の368,500人と比較すると225,700人(▲61.2%)減少している。令和3年度の道外客が令和2年度よりも増えたのは、ワクチン接種が開始されたことによる旅行機運の高まりや団体ツアーの催行などによると推察される。

令和3年度の道内客は150,200人であり、令和2年度の149,200人と比較して1,000人(0.7%)増加し、同水準を維持した。また、令和元年度の133,200人と比較すると17,000人(12.8%)増加している。昨年同様、マイクロツーリズムを中心とした道内旅行客が増えていることや風力発電等に係る送電網工事をはじめとした大型工事が実施されたことが、令和3年度の入込客数を底上げしている要因といえる。

令和3年度の外国人観光客の宿泊延数は543人泊であり、令和2年度の491人泊と比較して52人泊(10.6%)増加した。しかし、新型コロナ感染拡大を抑制するための世界的な渡航の自粛や、国が行った外国人の入国制限などが継続されており、令和元年度の19,278人泊には遠く及ばない。

#### (2) 観光入込客数の月別分析

##### ① 上期の月別分析

上期の観光入込客数は191,800人であり、令和2年度の172,900人と比較して18,900人(10.9%)増加した。

入込客数の結果を月ごとに見ると、4月は20,000人であり、令和2年度の9,200人と比較して10,800人(117.4%)増加した。5月は19,000人であり、令和2年度の7,400人と比較して11,600人(156.8%)

増加した。令和2年度の同時期は、初めて日本全体が新型コロナの脅威を実感した時期であり、東京都をはじめ全国各地に緊急事態宣言が出され、人の往来がほとんどなかった。したがって、令和2年度と比較すると今年度は大幅に回復をしたように見えるが、新型コロナ以前の令和元年度と比べると4月は5,800人（▲22.5%）減少、5月は45,200人（▲70.4%）減少という結果となる。

6月は23,300人であり、令和2年度の16,900人と比較し6,400人（37.9%）増加した。令和2年度の6月は緊急事態宣言が解除され、地域間をまたぐ移動が可能となったが、旅行自粛や消費抑制の継続といった根強い国民感情があった。令和3年度は新型コロナに対応した旅行形態をとる人々が多く現れたため、令和2年度よりも入込客数が増えたと考えられる。

7月は48,400人であり、令和2年度の40,700人と比較し7,700人（18.9%）増加した。令和2年度は7月1日より「どうみん割」が開始され、道内客の動きが活発であった。その一方、令和3年度は7月12日より東京都へ緊急事態宣言が出された。これらの理由により、4月から6月までの各月よりも増加の伸びが鈍化している。

8月は42,900人であり、令和2年度の51,200人と比較し8,300人（▲16.2%）減少となり、上期の各月の前年度比では初めの減少となった。令和2年度は7月22日から国の「GoToキャンペーン」が開始されたこともあり、人の往来が活発であった。一方、令和3年度は8月も東京都の緊急事態宣言が継続され、さらに8月2日から北海道がまん延防止重点措置の期間に指定されたため、令和2年度ほど入込客数を確保することができなかった。しかしながら、7月26日から当市が開始した北海道民限定のキャンペーン「わっかない応援クーポン事業（上期）」が功を奏し、大幅な減少は避けられた。

9月は38,300人であり、令和2年度の47,500人と比較して9,300人（▲19.6%）減少し、8月より減少幅が大きくなった。これは東京都への緊急事態宣言の継続のみならず、8月27日より北海道に対しても緊急事態宣言が出されたことに伴い、往来の自粛がされたことによる。さらに、北海道民限定で実施していた「わっかない応援クーポン事業」も一時休止せざるを得なかったことも影響しているとみられる。令和3年度の8月及び9月是一日の感染者数が20,000人を超える日もあるなど大変困難な状況であったが、令和2年度と比べて大幅な減少がなかったことは一定の評価ができる。

## ②下期の月別分析

下期の観光入込客数は101,200人であり、令和2年度の92,200人と比較して9,000人（9.8%）増加した。

入込客数の結果を月ごとに見ると、10月は25,700人であり、令和2年度の31,800人と比較して



6,100人（▲19.2%）減少となり、下期では唯一、前年度比で減少した月であった。令和2年度は10月1日から国の「GoToキャンペーン」に東京都が追加されたこともあり、特に道外客の入込が多かった。令和3年度は東京都や北海道の緊急事態宣言が9月末で解除されたが、上記の理由から令和2年度の入込には届かなかった。

11月は20,600人であり、令和2年度の19,000人と比較して1,600人（8.4%）増加した。さらに令和元年度の11月と同水準となった。これは11月1日から開始した「わからない応援クーポン事業（下期）」や宿泊割引の「てっぺん割」、団体向けのツアー助成事業などが功を奏したとみられる。

12月は16,700人であり、令和2年度の11,700人と比較して5,000人（42.7%）増加した。これは北海道が集中対策期間（10月28日から3月7日まで）に指定された令和2年度と比べ、令和3年度は11月から開始した各施策が引き続き有効に働いたためと考えられる。

1月は12,000人であり、令和2年度の8,000人と比較して4,000人（50.0%）増加し、下期では最も高い増加水準となった。これは東京都に緊急事態宣言（1月8日から3月21日まで）が発せられた令和2年度と比べ、令和3年度は11月から実施していた各施策が引き続き有効に働いたためと考えられる。

2月は11,700人であり、令和2年度の10,600人と比較して1,100人（10.4%）の増加となった。1月の増加水準と比べると減少しているが、これはオミクロン株の流行によって1月21日から2月13日まで東京都が、1月27日から2月20日まで北海道がまん延防止重点措置に指定され、人々の往来が減少したことなどよるとみられる。それに伴い11月から実施していた各施策も中断せざるを得なかったが、東京都が緊急事態宣言、北海道が集中対策期間に指定されていた令和2年度と比較すると増加している状況にある。

3月は14,500人であり、令和2年度の11,100人と比較し3,400人（30.6%）増加した。これは東京都の緊急事態宣言が発せられてた令和2年度と比べ、令和3年度は東京都及び北海道のまん延防止急転措置が2月で解除されたためと考えられる。

### （3）総括及び今後の取り組み

以上の結果から、令和3年度の観光入込客数は令和2年度と比較して若干の回復傾向が見られるが、新型コロナの影響を受け続けていることがわかる。

一方、ANAの稚内羽田便の運航継続、FDAのチャーター便の増加、団体ツアーの催行が増えたことなどに伴い道外客の入込が令和2年度よりも増加したことや、コロナ前よりも増加している道内客の入込が令和3年度もさらに伸びたことは評価できるものとして考えている。

国民へのワクチンの接種も進んでおり、今後はアフターコロナ・ウィズコロナを見据えた持続性の高い観光を目指していく必要がある。マイクロツーリズムはコロナ禍のような不測の事態において観光業界を下支えするものであることはこの2年間の結果から明白であることから、今後も道内観光客の誘致・受入を積極的に行っていく。アクティビティ、自然、文化体験の要素うち、2つ以上で構成される旅行であるアドベンチャーツーリズムもアフターコロナ・ウィズコロナにおいて有効な観光形態であり、それらを含めた滞在型の観光コンテンツの磨き上げや造成を引き続き行っていく必要がある。さらに団体ツアーの催行も再開され始めており、旅行エージェントに対して魅力的なツアー造成をしていただくよう働きかけていく。

特に、令和3年度末に稚内市、利尻町、利尻富士町、礼文町の1市4町による地域連携DMO候補法人が認可されたことは、この北宗谷地域の観光施策の大きな転換点となった。自治体単独ではなく北宗谷全体で広域観光地として捉えなおし、観光客の消費行動を最大化させていくよう各種施策に取り組んでいく。

令和3年度においても外国人観光客（インバウンド）の回復には至らなかった。しかし、令和4年6月現在、外国人観光客の入国を団体ツアーなどから徐々に許可するなど、回復の兆しも見えてつつある。これまでの実施してきた広域周遊ルート事業や広域周遊促進事業の経験を生かし、観光需要回復期のタイミングを逃すことなく、また、2023年に北海道で開催されるATWS（アドベンチャー・トラベル・ワードル・サミット）への参加を契機として、外国人観光客の獲得に向け通年観光の準備を進めていく。

このようにアフターコロナ・ウィズコロナにおける観光形態の変化に常に注目をしつつ、今後も社会情勢や観光市場の変化を見極めながら柔軟な観光施策を展開していきたい。